



さいたま市立宮原小学校 学校だより



令和 6年 8月28日 第6号

学校教育目標 心身ともに健やかで主体的に生きる子どもの育成

・たがいに努める子（やる気） ・たがいにきたえる子（元気） ・たがいに手をとる子（勇気）

ほめる

井上 雅史

39日間の夏休みが終わり、2学期が始まりました。我々教職員は、元気な子供たちと再び顔を合わせ、一緒に学校生活を送ることを楽しみにしていました。今日から学校生活のリズムを徐々に取り戻しながら、全ての児童が「やる気・元気・勇気」をもって笑顔で過ごせるように努めてまいります。

さて、1学期の学校だよりで「子どもは優秀な学び手」と『こまった子』はいない。『こまっている子』がいるだけだ。」という言葉をご紹介しました。そして、子どもの成長は一人ひとり違うので、共感的な姿勢を大人がもち、子供とじっくり向き合うことが、その子とその周りの子の将来の幸せにつながっていくとお話ししました。では、我々大人は、具体的にどのように子ども達たちに働きかけていけば、子ども達はよりよく成長することが出来るのでしょうか。

子ども達をよりよく成長させるためには、「ほめる」事がよいという話があります。ほめることによって子どもの自尊心が高まり、何事にも積極的になって、学力も向上するという考え方です。

このことが科学的に正しいのか、アメリカでいくつかの検証実験が行われています。

フロリダ州立大学のバウマイスター教授やバージニア連邦大学フォーサイス教授の実験では、高校生や大学生のテストの成績とほめる(自尊心を高めるよう働きかける)こととの関係を調べました。その結果、ほめることと学力が向上することの因果関係には、科学的根拠がないという結論が示されました。しかし「ほめることは悪いこと」ということではありません。

コロンビア大学のミュラー教授は「Praise for intelligence can undermine children's motivation」というタイトルの論文の中で、小学生を対象にほめ方によって学力の変化に違いがでるかを調べています。

その実験では、3回テストを行います。1回目のテストの成績が良かった子ども達に対して「あなたは頭がいいね」とほめる場合と「あなたはよく頑張ったね」とほめる場合で、2回目以降のテストの成績の違いや行動の変化の様子を調べました。

お気付きかもしれませんが、後者の方が、テストの成績が伸びたという結果になりました。それだけでなく、「あなたはよく頑張ったね」とほめられた子ども達は、2回目以降のテストにも粘り強く取り組むようになったそうです。

このことから言えることは、子どもをほめるときには、もともと持っている能力をほめるのではなく、「今日は漢字練習に集中して取り組めたね」「毎日自主学習ノートに取り組めたね」「毎日お風呂掃除を忘れずにできたね」など具体的に子どもが達成した内容を挙げてほめることが効果的だということです。ちなみに、この論文のタイトルの邦訳は「能力をほめることは、子どものやる気を蝕む」だそうです。

ここでご紹介したことは、統計的に処理し「そういう傾向があると科学的に言える」となったものです。必ず全員に当てはまるということではありません。しかし、どのようなほめ方をしたらよいかを、その子に合わせて考えていくことは、とても大切なことではないでしょうか。

宮原小学校では、今後もご家庭と連携しながら一人一人の子どもの理解に努め、教育活動に取り組んでまいります。学校生活で心配なことやお子様の様子で気になることなどがありましたら、遠慮なくご相談ください。様々お願いすることもあるかと思いますが、2学期も御理解・御協力のほど何卒宜しくお願いいたします。